



「秋に包まれて」

四季の部 銅賞 日野市 佐々木 陽介



「友との別離に思う」

別格本山高幡山金剛寺 貫主 杉 田 純 一

宇宙が誕生したのは、今から約一三八億年前のことと考えられています。そこで、この一三八億年という長い時間を一年に縮め、宇宙カレンダーを作ってみます。すると、宇宙の誕生は一月一日、地球の誕生は四月三十日ごろ、そして現生人類（ホモ・サピエンス）が登場するのは、十二月三十一日午後十一時五十九分二十四秒ごろになるそうです。

さらに、人の一生を百年として宇宙の時間に換算すると、百年はわずか約〇・二三秒にしかありません。宇宙一三八億年という壮大な時間の中では、私たちの一生はほんの一瞬です。そう考えると、今ここに生きている一日一日、そして一瞬一瞬が、いかに貴重なものであるかを思わずにはいられません。

今年三月、若き頃からよく酒を酌み交わし、たわいのない話をしては笑い、時には真剣な議論を交わした、私より三歳年下の友人を亡くしました。明るく楽しい人柄で、皆から慕われていた友人です。また七月には、公私ともに大変頼りにしていた仏教学の先生とも、幽明境を異にすることとなりました。先生ともよく酒を酌み交わしましたが、何か困ったことがあると相談すれば、いつもの確かな意見をいただきました。当山で開いていたいただいた仏教の勉強会も、大変分りやすく、笑い声の絶えない楽しい時間でした。

二人の友人と過ごした日々を振り返ると、同じ時代に生き、同じ場所での出会い、語り合うことができたこと自体が、まさにかけがえのないご縁であったと思います。今はただ、そのご縁に感謝するばかりです。

ご信徒の皆様をお迎えて勤めるお護摩の法要もまた、二度と同じ時はない一期一会のご縁です。この一瞬を大切に、出会いを大切に、今あるご縁に感謝しながら、一日一日を丁寧に生きていきたいと思えます。

謹んで熊本地震災害のお見舞いを申し上げます

令和八年熊本地震により尊い命を失われた方々のご冥福をお祈り申し上げますと共に被災された皆様に謹んでお見舞い申し上げます。一日も早い復興を心より御祈念致しております。

八葉会館・寺務局再建工事資金ご寄進のお願い



当山では客殿の老朽化に伴い、ご参拝の皆様
の安全と利便性を高めるため、長年の懸案でござい
ました新客殿・寺務局再建工事を発願、令和七年
春から着工致しました。皆様には事業成満のため
絶大なる御信援・御協賛を賜りますよう謹んで
お願い申し上げます。合掌

工 事 概 要

工事名称…新客殿・寺務局再建工事
工事期間…令和七年四月一日～

令和九年三月三十一日

設計監理…株式会社文化財工学研究所

施 工…株式会社藤木工務店東京支店

建物概要…地上三階・鉄骨造・エレベーター完備

建物規模…延床面積 八六九・二四坪

建築面積 三二三・三一坪

主要構成…一階 寺務室・製札作業室・厨房

二階 大広間・多目的洋間・会議室

三階 貴賓室・教学研究所・会議室

事業費…三〇億円

落慶法要…令和十年春

工事資金勸募…

令和九年三月三十一日まで

一口 一〇、〇〇〇円（何口でも可）

お振込みの方は さわやか信用金庫高幡不動支店（022）

普通預金 No.0383288

宗教法人金剛寺 代表役員 杉田純一

※ご寄進に合わせ申込用紙を記入いただきご提出をお願い致

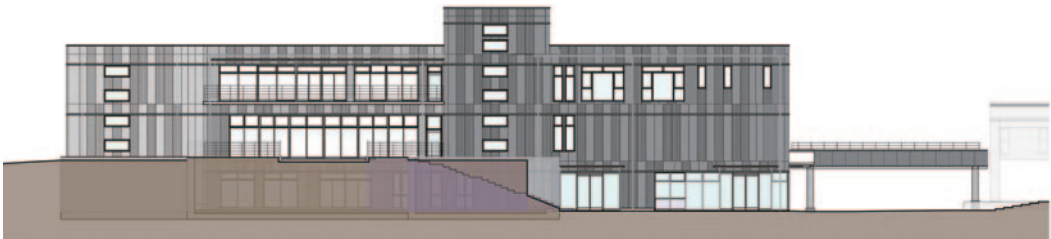
します。ご希望の方には申込用紙をお送り致します。



東側立面図



東側玄関唐破風



南側立面図

八葉会館・事務局寄進者芳名(敬称略)(自令和八年四月二十一日至七月二十日)

多摩市 京王電鉄(株)

日野市 本 妙 講

小金井市 つくば家石材(株)

日野市 渡 邊 良 勝

目黒区 伊藤雅宣

日野市 芝崎英吉

日野市 服部 大

日野市 立川市 マノ精工(株)

加野 秀幸

日野市 (代取)林愛子

吉原 浩太

小宮 昭郎

青木 徹

日野市 港区 大野代志枝

宮別府神社 江東区 田崎 太郎

町田市 昭男

鬼山 芳香

八王子市 日野市 永長 文雄

吉野 和子

守屋 一春

川辺 健治

土方 恵子

平 信子

甲州市 眞弓

熊谷 毅志

三鷹市 常光 宗智

新座市 金野 正実

世田谷区 石坂 正男

福田 奈緒

清須市 西村 茂

千葉市 殿村 方規

相模原市 河口 清司

武蔵村山市 小瀬 誠吉

立川市 横手 徳次

久松奈緒子

田坂 富雄

武田 敏子

多摩市 義博

浦部 泰宏

浅野 明美

大塚 明美

中央区 高橋 法夫

猪苗代町 月岡 勝彦

町田市 永井 桃子

飯干 龍児

築瀬 浩志

調布市 阿部理恵子

会田美奈子

東村山市 薛 如卿

薛 月紅

黄 智元

湯沢町 吉沢千代子

板橋区 匿 名

府中市 菅野 要子

田中 政市

田中 里子

立川市 横手 徳次

久松奈緒子

田坂 富雄

武田 敏子

多摩市 義博

浦部 泰宏

浅野 明美

大塚 明美

中央区 高橋 法夫

猪苗代町 月岡 勝彦

町田市 永井 桃子

飯干 龍児

築瀬 浩志

調布市 阿部理恵子

訃 報

「高幡不動尊山報」創刊第一号(平成四年十二月一日発行)から長年にわたりご執筆いただきました廣澤隆之先生が。去る七月一日、世寿七十九歳にてご遷化されました。

ここに謹んでお悔やみ申し上げますとともに、

ご教授いただき

ました御礼と佛

果増進菩提をお

祈り致します。

合掌



ご奉納御礼

左記ご奉納頂き大変有難く厚く御礼申しあげます。(敬称をすべて省略させていただきます)

幟旗奉納者芳名

(令和八年五月一日〜七月三十一日)

新宿区 陶山 美樹

調布市 柴田 和男

昭島市 五十嵐 虎孫

伊勢原市 西川 知明

一、品名 彼岸花球根

奉納者

八王子市 佐々木 正志

境内整備緑化資金

寄進者芳名

(令和八年五月一日〜七月三十一日)

小金井市 伊藤 隆泰



大施餓鬼法要 8/15

高幡不動尊 フォトニュース



寺子屋ご参加の皆様と 8/4



施餓鬼会ご法話～飯島隆貴先生 8/15



境内の梅を収穫 5/27



あじさいまつり写真コンクール審査 7/29



青葉まつり法要 6/15



五重塔五層から～寺子屋ご参加の皆様 8/4



青葉まつり詠歌奉詠・高幡山遍照講の皆様 6/15



曼珠沙華が新たに植栽されました～境内馬場跡



あじさいまつりの賑わい 6/16



移設された「文永の板碑」 8/10



新客殿寺務局「八葉会館」建設状況 6/2



「文永の板碑」移設前の日野市による調査 5/18

秋の行事案内

(毎月十五日にはお焚き上げが行われます)

◆ 九月

- 13日(日) フリーマーケット
- 20日(日) ござれ市(がらくた市)
- 21日(祝) 月例写経会(午後一時半) 法話 山内僧侶
- 23日(祝) 彼岸会法要(午前七時) 大日堂
- 24日(木) 千体地藏尊月例法要(午後二時) 法話 山内僧侶
- 28日(月) 秋季大祭大般若会 お花講総登壇日

◆ 十月

- 11日(日) フリーマーケット
- 18日(日) ござれ市(がらくた市)
- 21日(水) 多摩八十八ヶ所巡拝結願法要
記念法話 講師 多摩八十八ヶ所第七十二番札所
萬福寺御住職 南清 晋介 先生
- 21日(水) 月例写経会(午後一時半) 法話 山内僧侶
演題 「仏様との出会いと御縁」
- 24日(土) 千体地藏尊月例法要(午後二時) 法話 山内僧侶
- 28日(水) 第五十五回 高幡不動尊菊まつり (下段参照)
- 28日(水) 月例祭(ご縁日)

◆ 十一月

- 十一月(中) 七五三祈願 (下段参照)
- 7日(土) 五重塔ブルーライトアップ
- 8日(日) フリーマーケット
- 14日(土) ・15日(日) 高幡写仏会 講師 牧 宥恵 先生
- 15日(日) ござれ市(がらくた市)
- 18日(水) 30日(月) 高幡不動尊もみじまつり
- 21日(土) 月例写経会(午後一時半) 法話 山内僧侶
- 22日(日) ・23日(祝) 萬燈会・たかはたもみじ灯路
- 24日(火) 千体地藏尊月例法要(午後二時) 法話 山内僧侶
- 28日(土) 月例祭(ご縁日)

第五十五回高幡不動尊菊まつり

恒例の高幡不動尊菊まつりが左記の通り開催されます。皆様お誘い合せてご鑑賞下さい。

記

- 一、月 日 十月二十八日(水)～十一月十七日(火)
- 一、会 場 高幡不動尊境内
- 一、参 加 多摩菊花連盟参加五市の菊作り愛好家
- 一、出 品 厚物・管物・一文字・懸崖・福助・だるま・盆栽・切花等
- 一、特別出展 参加五市の特設花壇及び特志者の大作り(千輪咲・三重塔)等も出品。
- 一、審 査 十一月五日・十三日の両日に行われ、内閣総理大臣賞をはじめ各大臣賞・東京都知事賞等が贈られます。

※期間中は毎日菊作りの相談及び菊苗の販売が行われます。展示された菊花のうち切花は十一月七日・十四日の両日朝から 福助は十一月十日午後一時から即売されます。又、期間中のご縁日・日曜・祝日等は七五三詣とも重なり大変混み合いますので、なるべく電車・モノレール・バスをご利用下さい。



昨年の文部科学大臣賞

七五三・新生児祈願のご案内

お子様の健康をお祈りする七五三祈願は十月～十一月中毎日、新生児祈願は一年中ご修行しております。

◎ご祈願料 金五、〇〇〇円以上 (お札・供物料含む)

※堂内ではお子様を中央前に、ご家族の方はその後ろにお座り下さい。



高幡不動尊もみじまつり

十一月十八日(水) ～十一月三十日(月)

境内から裏山にかけては、樹齢二百年以上の古木三百株・約三十年の稚木一〇〇〇株が集中しています。特に五重塔・大師堂・鐘楼堂付近のもみじは見事でライトアップも予定されております。

もみじまつり期間中の主な行事・催しは左の通りです。

- 十一月十四日・十五日 高幡写仏会
- 十一月十五日 ござれ市
- 十一月二十一日 月例写経会
- 十一月二十二日・二十三日 萬燈会・たかはたもみじ灯路
- 十一月二十四日 千体地藏尊月例法要
- 十一月二十八日 ご縁日

萬燈会・たかはたもみじ灯路

当山では左記の通り二日間に亘って萬燈会を奉修し、皆様の七難即滅・七福即生並びにご先祖様の追福菩提をお祈りさせていただきますので、皆さまお誘い合せてご参加下さい。

尚、両日とも午後六時から門前町一帯で、約二四〇〇個の置灯明が点灯され、「たかはたもみじ灯路」の幽玄な世界が現出されますのでお楽しみ下さい。

記

- 一、月 日 十一月二十二日(日)・二十三日(祝)
- 一、会 場 高幡不動尊大日堂
- 一、行 事 法 話・詠歌奉詠 午後四時
萬燈会(大日堂) 午後五時
塔婆供養(五重塔前) 午後五時三十分
- 一、御燈料 金一、〇〇〇円也(二人につき)
- 一、經木塔婆 金一、〇〇〇円也(一霊につき)
- 一、浮燈明 金 八〇〇円也(五重塔の池に浮べる燈明です)

多摩八十八ヶ所巡拝結願記念法話

・日 時 十月二十一日(水) 午前十時三十分

・会 場 不動堂(聴講無料)

・講 師 多摩八十八ヶ所第七十二番札所

萬福寺御住職

南 清 晋 介 先生



・演 題

「仏様との出会いと

御縁」

高幡写仏会のお知らせ

自分の手で仏様のお姿を写経のように写して、その後、御本尊不動明王に奉納する写仏会です。

当山では年二回写仏布教の第一人者、画僧牧宥恵師を招いて開催しています。写仏前の御法話も人気があります。是非この機会に御参加いただき、お不動様との法縁と写仏を自身の浄行とされ御本尊不動明王のご加護を授り下さい。

記

- 一、日 時 十一月十四日(土)・十五日(日)
- 一、会 場 午後一時～午後四時(受付 正午より)
- 一、内 容 五重塔千体地藏堂 午後一時 法話
午後二時 写仏
- 一、会 費 午後四時 写仏奉納大護摩修行 貳千円(材料費含む)
- ◆お申込・高幡不動尊事務局まで
- 電話 〇四二五九一〇〇三二

大提灯

ご奉納のお願い

当山では萬燈会・正月・大祭・節分等の大行事の折、各所に大提灯をお飾り致しますのでご協賛の程お願い申し上げます。

尚、募集要項は左の通り

- 一、品 名 萬燈会及び大祭用大提灯(ご奉納者芳名入り)
- 一、募集数 五十基
- 一、志納金 金五〇、〇〇〇円
- 一、申 込 当山事務局又は宝輪閣受付

(ご連絡下されば申込書をお届け致します)



ご奉納いただいた大提灯

お遍路の旅

多摩
八十八ヶ所

日程・四月より九月まで毎月一回巡拝
十月は高幡不動尊にて結願法要となります
バスは各月の第一日曜日、火曜日、木曜日運行（五月のみ第二週に運行）
費用・68,000円（納経料・バス代・保険料込み）
お問い合わせ・高幡不動尊内 龍華会 042-591-0032

多摩八十八ヶ所巡拝のご案内

当山では昭和四十八年より毎年、四月から十月にかけて多摩八十八ヶ所巡拝を実施致しております。巡拝は初めての方でも先達のお坊さんの案内をいただき乍ら月一回の楽しい巡拝が出来ます。ご知友お誘い合せてご参加下さいますようご案内申し上げます。

記

一、巡 拝 毎月第一週の火・木・日曜日

（五月は第二週）

一、会 費 六〇、〇〇〇円（七回分）分割納入も可

（納経料・バス代・保険料等を含む）

一、昼 食 各自持参

※詳しくは高幡山寺務局内「龍華会」まで

電話 〇四二五九一〇〇三二番



お不動様の御姿 御朱印帳
1冊 1800円



御朱印袋 1800円

お不動様の御朱印帳と同じ絵柄で黒地にお不動様のお姿が織り込まれています。

「多摩八十八ヶ所巡拝のしおり」

平成四年に出版された「多摩八十八ヶ所巡拝のしおり」を再編したものです。お大師様の信仰を深め八十八ヶ所巡拝をされてはいかがでしょうか。

一部 一、〇〇〇円

※ご希望の方には郵送致します。

電話 〇四二五九一〇〇三二 龍華会まで

謹んで千葉豪雨災害のお見舞いを申し上げます

令和八年八月千葉豪雨により尊い命を失われた方々のご冥福をお祈り申し上げますと共に被災された皆様に謹んでお見舞い申し上げます。一日も早い復興を心より御祈念致しております。

く 献花のおすすめ

お花講 講員の募集

当山ではお花講講員の皆さま方の会費により、山内全ての伽藍のお花を飾らせていただいております。大勢様ご入講下さいますようご案内申し上げます。

記

一、名 称 高幡山お花講

一、会 費 一ヶ月 五〇〇円

※入講は随時承っております。

ご入講の皆様には輪袈裟を授与します。

常楽会記念法話

・日 時 令和九年二月二十五日(月) 十三時から

・会 場 大日堂(聴講無料)

・講 師 新潟県長岡市 南泉院

三 富 良 正 先生

・演 題

「おしやかさまに
学ぶ」



「あじさいと記念写真」
あじさいの部 銀賞
八王子市 原田 恵一



「アジサイ咲く広場」
あじさいの部 銀賞
八王子市 佐野 軍英



「あじさい咲く、奥殿」
あじさいの部 銀賞
日野市 設楽 誠一



「紅葉の下でのお祈り」
四季の部 銀賞
日野市 篠 正治

第四十二回あじさいまつり

今年も昨年同様、新客殿工事に伴い、少年柔剣道、日本拳法、空手の各奉納大会をお休みし、俳句短歌大会、写真コンクール、クイズ大会などを開催しました。

第三位

紫陽花の

青の機嫌を

推し量る

墨田区 中澤 美佳

④長谷川 瞳 ⑤橘田みち子

⑥新井よしを ⑦片倉 弓

⑧橘 光江 ⑨月城 花風

⑩佐藤 由美 ⑪中込ことゑ

⑫山本野枝子 ⑬釣田都美子

⑭諏訪園加奈子 ⑮若林アヤ子

⑯西尾 京子 ⑰三好 忠士

⑱工藤加代子 ⑲伯耆 惟之

⑳佐々木利正 ㉑佐藤 洋子

㉒宮岡 定子 ㉓瀬戸 悦子

㉔取手 耕介 ㉕中川いく子

㉖関根 正義 ㉗尾崎 若菜

㉘加川すすむ ㉙高野 泰恵

③梅原 清次

あじさいまつり短歌大会
今大会は一七六首の応募があり、三名の先生方に各五十首選を依頼し、合計点で上位三十名の入選が決まりました。選者は次の先生方です。
(敬称肩書略・五十音順)
第一位 青、蒼、碧
幾層の花 装いて
あじさい寺に
夏が始まる
板橋区 伊藤恭一郎
第二位 ろうあ者が
より添ひ語る 花のいろ
手話をまじえて
色を楽しむ
日野市 宮本 順子
第三位 まっさらな
少女に返るは 夢の夢
真白きあじさい
少し憎めり
大田区 渡利 杏
④石川るみ子 ⑤大久保 昇
⑥中安百合子 ⑦佐藤 昌喜
⑧島崎 栄子 ⑨藤井 徳子

⑩中道 操 ⑪廣山 弘子
⑫北村 芳枝 ⑬手塚 兼夫
⑭菊丸 雅俊 ⑮宮田 美子
⑯柴田 大地 ⑰千明 武紀
⑱清水 桂子 ⑲高橋 勇
⑳浜田 邦夫 ㉑山口 佳紀
㉒西川 直子 ㉓富山富美子
㉔南 孝子 ㉕花町 淳一
㉖横尾美知子 ㉗田村智恵子
㉘坪井 真里 ㉙奥 呂美生
③町田 重光

あじさいまつり全国俳句大会

今大会は一二五〇句の応募があり、七名の先生方に各七十句選を依頼し合計点で上位三十名の入選が決まりました。選者は次の先生方です。

(敬称肩書略五十音順)

大竹多可志・才野 洋

笹木 弘・鳥居真里子

暮目 良雨・福神 規子

星野 高士 の諸先生

第一位

水琴窟

聴かむとたたむ

白日傘

世田谷区 松本由美子

第二位

一毫も

ゆれぬ志士像

青嵐

川崎市 石田 雄進



「白あじさい」

あじさいの部 銅賞

八王子市 渡辺 一博



「明り灯る頃」あじさいの部 銅賞
日野市 小山 乾



「五重塔を彩るアジサイ」あじさいの部 銅賞
府中市 能登 正俊

山内八十八ヶ所クイズ

今年の山内八十八ヶ所めぐりクイズは、四八七名に御解答いただき、全問正解は四一九名でした。

クイズの正解

①お不動様の両脇にいるのは？

「こんがら・せいたか童子」

⑩万葉集で紫陽花を詠んだ歌人は

は伴家持と誰？

「橘 諸兄」

②石田散葉の服用方法は？

「酒で飲む」

③京王電鉄二〇〇〇系のフリースペースの名は？

「ひだまりスペース」

④国宝の建造物が一番多いのは？

「奈良県」

⑤多摩モノレールの騒音が少ないのは？

「ゴムタイヤ」

⑥怒ったお姿の観音様は？

「馬頭観音」

⑦花まつりでお釈迦様に注ぐのは？

「甘茶」

⑧サンリオピューロランドは何周年？

「三十五周年」

⑧お不動さまが右手に持つて

いるのは？

「智剣」

あじさいまつり写真コンクール

今回は総数一、一四四点（あじさいの部七〇三点、四季の部四四一点）の作品を応募いただき、七月二十九日に審査会が行われ、合計一〇八点が入賞しました。入賞作品は九月三日～十五日まで京王聖蹟桜ヶ丘ショッピングセンターＡＢ館五階連絡ブリッジギャラリーに展示します。

上位入賞者

〈あじさいの部〉

金賞 府中市 市川 千賀子（本号本頁掲載）

銀賞 日野市 設 楽 誠一（本号九頁掲載）

〃 八王子市 原 田 恵一（本号九頁掲載）

〃 八王子市 佐 野 軍 英（本号九頁掲載）

銅賞 日野市 羽 賀 道 行（九年六月号掲載）

〃 八王子市 渡 辺 一 博（本号十頁掲載）

〃 府中市 能 登 正 俊（本号十頁掲載）

〃 三鷹市 北 野 修（本号本頁掲載）

〃 日野市 小 山 乾（本号十頁掲載）

〈四季の部〉

金賞 東久留米市 常 盤 庄 司（本号本頁掲載）

銀賞 日野市 野 村 明 雄（八年十二月号掲載）

〃 日野市 橋 本 昌 利（八年十二月号掲載）

〃 日野市 篠 本 正 治（本号九頁掲載）

銅賞 八王子市 真 次 弘（本号本頁掲載）

〃 日野市 佐々木 陽 介（本号一頁掲載）

〃 府中市 佐 藤 保 治（本号本頁掲載）

〃 海老名市 清 水 進（九年三月号掲載）

〃 文京区 小 池 基 夫（九年三月号掲載）



「初詣に沢山の人」
四季の部 金賞
東久留米市 常盤 庄司



「私のいち押しあじさい」
あじさいの部 金賞
府中市 市川 千賀子



「晩秋」
四季の部 銅賞
府中市 佐藤 保治



「木漏れ日」
あじさいの部 銅賞
三鷹市 北野 修



「山頂のお花畑」
四季の部 銅賞
八王子市 真次 弘

山内消息

成田山勸学院生来山

六月十二日、成田山勸学院一行様が来山されました。当日は引率の山田監督、小豆畑助監督のもと、勸学院生三名が院外研修に臨まれ、境内散策や諸堂の拝観、大護摩修行などを体験されました。日々修行に励まれる勸学院の皆様にとって、当山の歴史や教義に触れた今回の研修は大変実り多いものと存じます。どうかお体を大切に、日々の修行に励まれ、無事成満されることを願っております。

(加藤記)



成田山勸学院様

写仏会

恒例の写仏会が六月十三・十四日の二日間にわたり、九重塔千体地藏堂において開催されました。午後一時からご法話、二時に写仏、四時には写仏奉納大護摩修行を勤修しました。写仏布教の第一人者牧有恵先生をお招きして年に二回開催しており、写仏前のユーモアあふれる御法話も人気があります。次回は十一月十四・十五日に開催しますので、是非この機会に御参加下さい。

(伊大知記)

青葉まつり

六月十五日、宗祖弘法大師中興興教大師、両大師様の誕生会である青葉まつり法要を大日堂にて勤修致しました。法要に先立ち、川崎大師平間寺・佐竹隆信先生より「戒律のすすめ」と題した記念法話をいただきました。法要では僧侶の読経と遍照講高幡山支部の皆様による御詠歌「両祖大師誕生和讃」が奉詠され、ご参列の皆様と共に両祖大師様の御誕生をお祝いし、その御遺徳を偲び、報恩謝徳の誠を捧げました。

(津守記)



牧先生のご法話

あじさい毬切り

六月のあじさいまつりには多くの方に御来山いただき有難うございました。

来年に向け、七月八日に紫陽花の毬切りが行われました。梅雨明け前の気温三十度を越す一日となりましたが、地元有志の方々のお奉仕をいただき、職員も手分けして取り組みました。さらに美しく咲き、御参拝の皆様にお楽しみいただけますことを願っています。

(小山記)

「東京多摩教区智山青年会能登半島地震被災地復興支援募金」

七月二十七日、東京多摩教区智山青年会が能登半島地震被災地復興支援募金の為、来山されました。

十五時に被災地復興祈願護



毬切りのお手伝い

摩に参列し、護摩後、貫主から支援金を手渡されました。その後、境内にて支援金の募金活動を行い、盆おどり実行委員会の方々を始め出店業者、参拝の方々から多くの心温まる支援金をお預かり致しました。

支援金は十月二十六・二十七日に『被災地・被災者の復興祈願並びに物故者の回向法要』と共に能登にお持ち致します。

(丸山幸記)

盆DANCE

七月二十七日・二十八日、駐車場にやぐらを組み盆踊り大会が開催されました。本年はそれに先立ち二十六日に盆DANCEというイベントが開かれました。

盆DANCEは若い人が中心となっているイベントで、

普段とは違う音楽で踊る若い人向けのイベントでした。そもそも盆踊りとは諸説ありますが、仏教行事であるお盆と念仏を唱えながら踊る念仏踊りが結びつき誕生したといわれています。お盆で先祖を迎え踊って送り出すという意味があるそうです。(杉田記)

寺子屋

厳しい暑さが続く八月四日当山にて寺子屋が開催されました。高幡わかくさ子供会並びに近隣の子供達を含む総勢十六名の参加となり、暑さに負けない程に盛り上がりを見せました。初めに念珠作りを行い、次に竹灯籠作りを体験していただきました。竹に好きな絵を描いて、後日職員が絵を元に掘って作成する次第です。十一月の萬燈会に於いて飾られる予定です。その後は仏教言葉クイズや護摩修行への参列、境内散策をもって無事に終了することが出来ました。来年もまた来たいというお声もいただき、参加者や私たち職員も楽しく過ごすことが出来、感無量な気持ちになりました。(佐竹智記)

諸行事に参加して

青葉まつり

記念法話(6/15)

「戒律のすすめ」

川崎大師平間寺教学課

川崎大師教学研究所周員

那須烏山市 西方寺御住職

佐竹 隆信 先生

清瀬市 沖山 順子

梅雨に入って新緑の中のあるじさいの花が雨に濡れて美しい本日、毎日の生活の中で、最も必要とされていること

(十善戒)を拝聴させて頂きありがとうございます。お大師様が私達の生活の中で、大切に心掛けて過ごしていくために明示になった、からだのおこない、ことばのおこない、こころのおこないを心にとどめて過ごしたいと思います。



佐竹 隆信 先生

八王子市 星野 藍花

お大師様のお教えを御法話で聞けて、又改めた心で生活をしていこうと思います。ありがとうございます。

日野市 海老沼 進

戒律のすすめの法話を拝聴いたしました。悪いと思われすることは、他にあるものではなく、すべて私達の中にあるのです。自分自身で良くも悪くもすることが出来るので、すから、まずは自分を見つめ、自分に問うことを日頃から心掛けたいと思います。ありがたい法話をありがとうございます。

山内八十八ヶ所
クイズめぐり

立川市 内田 帆架

五歳の娘も楽しみながら巡れました。アジサイや鳥の声、木々の木陰を堪能でき、自然を感じられる豊かな時間を過ごせました。ありがとうございます。

杉並区 後藤 望友

景色もすばらしく、大地からのエネルギーを感じる中で巡らせていただいて光栄で

した。七十代の両親が九州から上京していたので、一緒にまわりました。かけがえのない思い出をありがとうございます。

合掌

町田市 向山さゆり

子供の頃、今は亡き父と毎週のように通っていたことを懐かしく思い出しながら巡りました。周囲の街並みは変わっても、ここは昔のままで、タイムスリップしたような幸せな散策でした。

国立市 宮下 尚子

月一回程度お参りしています。四季折々の草花や香りを楽しみながら、少しずつ心が癒され整っていくのを感じます。今まで知らなかった知識を得られ、クイズも楽しませてもらいました。

立川市 中司 千紘

緑豊かで、鳥の声を聞きながら散策するのは、とてもリラックスの出来る有意義な時間でした。クイズの内容もとても面白くて楽しかったです。

寺子屋

餘目 実来

五重のとうに登れたのがよかったです。かいだんが少しつかれましたが、一番上から見景色がきれいでした。そして、まんどうえで使う竹にあなをあげるイラストをかくのが楽しかったです。十一月二十三日に見てみたいです。とても楽しかったのでも来年も来たいです。はじめの会場の約三〇〇〇の仏ぞうの数にびっくりしました！



竹とうろう作り

ももせきみか
ごじゅうのとうの かいだんをかざえたら 一九八だんでした。うえから おうちとくるまがみえました。いのことがうれしかった。おやつをもらってうれしかった。

小山内色葉
竹の工作や、なりりゅうの体けんが楽しかった。十一月二十三日が楽しみです。

美濃部佐和

たのしかったです。とくに絵を書いたことです。自分の書いた物を、みんなに見てもらうのに少しきんちゃんしながら書いたけど上手にできてよかったです。十一月二十三日に見に来るのが楽しみです！あとは最初に来た会場に約三〇〇〇の仏像があることにビックリしました。本物の唱えている所を見られて良かったです。

石原なつ葉

今回で三回目なのですが、かわらず楽しい時間をすごすことができました。自分のオリジナルのじゅずを作ったり十一月二十三日にかざられるろうそくを作ったりできて、とてもしあわせでした。とくにうれしかったのは「〇〇」の言葉のいみは「〇〇」というふうに、あまり分からなかった言葉を知ることができて、とてもべんきょうになりました。

奥 殿 だ よ り 第 十 七 回

不思議な画家 田公実
(その五)

(承前)

前回、新たに確認された田公実筆の不動明王及二童子像圖を紹介しましたが、それを含めて作品十七点と、當山の不動明王及二童子像九点及び芝山仁王尊像二点の計十一点の素描を所蔵しております。

しかし田公実の経歴等に関する資料は発見できず、安政四年(一八五七年)に當山に滞在し制作に励んでいたと思われる以外、その人物像に関しては一切不明のままです。

田公実の足跡を探る為に、當山所蔵品以外の田公実作品を探してみた所、七点の作品を確認する事が出来ました。以下、それらを紹介していきます。

一、東京都府中市安養寺所蔵品
二点の絹本着色の作品が所蔵されております。

①龍圖(一〇三、二×五〇、〇 糝) 外題「壽亀龍」
落款「嘉永己酉首夏製／遜齋公実」朱文「遜齋」方印、白文「華公実」方印

②虎圖(一〇三、三×四九、九 糝) 外題「壽亀龍 虎」
落款「嘉永己酉年首夏製／

遜齋公実」白文「遜齋」方印、白文「華公実」方印

遜齋公実」白文「遜齋」方印、朱文「公実」方印

「嘉永己酉年」とあり、嘉永二年(一八四九年)の作であることを知る事が出来ます。現在確認されている田公実作品としては最古のものであります。當山所蔵品落款に見られる「法眼」の称号もその下位の「法橋」も称しております。

二、東京都府中市美術館展示品
二〇一六年開催の企画展『ファンタスティック 江戸絵画の夢と空想』に、以下の個人所蔵の四点が出陳されております(以下、「府中市美術館展示品」と略称す)。

紙本墨画で、寸法は皆一二

九、九×五六、二糝です。嘗て筆者が館長を務めた館を始めとして、通常は博物館、美術館では、特別展等の展示資料について収集した様々なデータは破棄する事なく保存しております。しかし同館に問合たところ、写真等は残されておらず、図録印刷の原稿等も保存期限が過ぎてしまに残されていないとの事で、同展図録掲載の図版より落款の翻刻を行っております。その為、誤読があるかと思ひますが、御寛恕下さい。

①鯉圖
落款「安政五戊午夏至永潯法眼遜齋公実」朱文「遜齋」方印、白文「法眼公実」方印(四点とも、印は皆同一のもの。②③④は記載略)

②虎圖
落款「安政五戊午首夏下潯補圖法眼田公実」

③鷹図
落款「安政五戊午仲夏上潯法眼遜齋公実製」

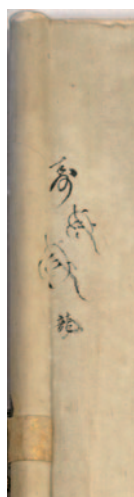
④龍圖
落款「安政五戊午首夏中潯法眼遜齋公実製」

當山所蔵品の落款には、「安政四丁巳」「丁巳」とあり、府中市美術館展示品は當山所蔵品の翌年に製作されたことが知られますが、何処で製作されたのかは不明です。

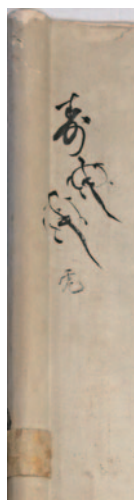
右掲の図は、『ファンタスティック 江戸絵画の夢と空想』(二〇一六年、府中市美術館)掲載の挿図93より採ったものです。(未完)

〔附記〕東京都府中市安養寺所蔵資料の調査に際しましては、住職關口晃成師に大変御世話になりました。末筆ながら記して謝意を表する次第です。

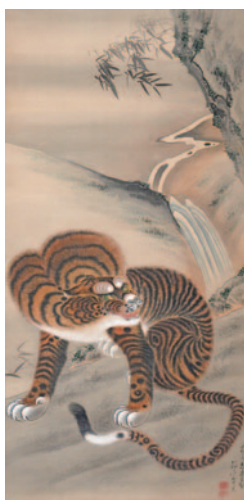
(藤井和夫記)



府中市安養寺所蔵田公実掛軸 龍圖



府中市安養寺所蔵田公実掛軸 虎圖

② 虎圖
落款「安政五戊午首夏下潯補圖法眼田公実」① 鯉圖
落款「安政五戊午夏至永潯法眼遜齋公実」朱文「遜齋」方印、白文「法眼公実」方印(四点とも、印は皆同一のもの。②③④は記載略)④ 龍圖
落款「安政五戊午首夏中潯法眼遜齋公実製」③ 鷹圖
落款「安政五戊午仲夏上潯法眼遜齋公実製」

高幡いきもの晏茶羅

(36)

五月になって境内でイソヒヨドリをよく見掛けるようになりました。オスは青と褐色、メスは全体が褐色がかった色でカエルのような綺麗な声で鳴きます。主に海辺で繁殖していたイソヒヨドリは近年都市部に進出した鳥で、柔軟な環境適合性があるものと思われま。

私達の周りの自然環境は常に変化しています。それに合わせるかのようにいろんな生き物たちが入れ替わります。前出のイソヒヨドリもそうですが、高幡不動尊の境内でもこの三十年余りで多くの生き物たちの入れ替わりが確認されました。その中でも一番影響が大きいの繁殖力の強いガビチョウの勢力拡大です。主に藪の中で繁殖する彼らはアオジ達の生活圏を奪ってしまったようです。そしてこの現象の背後には地球温暖化があるのはほぼ間違いなさそうです。

植物や動物の雌雄の違いを発見するのも自然観察の楽しみの一つです。例えば低木のヒメコウゾは雄花雌花の違いが際立っており、

なにげなくつかっている仏教のことは―道楽(どうらく)

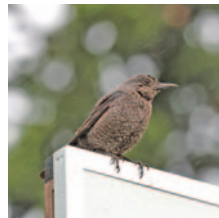
現代では「道楽」とは、本業を顧みず、趣味や遊び、贅沢な楽しみにふけることをいいます。

ある經典には、「楽には二つあり、それは俗楽(世俗的な一時しのぎの楽しさ)と、道楽(仏道修行によって得られる境

その美しいフォルムで目を楽しませてくれます。境内でよく見掛ける野鳥達やカブトムシなどの昆虫も雌雄の違いが顕著です。しかし人間も含めて性差を超えて包括的に捉えるのがダイバーシティの観点であり、その核心が「一切衆生悉有仏性」という言葉なのです。この視点に立つことで改めて自然を捉え直すことが出来るのではないのでしょうか。



イソヒヨドリのオス



イソヒヨドリのメス



ヒメコウゾ 上が雄花・下が雌花



ヒメコウゾの実

地)とである」と説かれています。ここでいう道楽とは、仏の道を修行によって歩み、その先に得られる真の安らぎを意味しています。

この求道的な「道楽」の意味合いを考えると、「自分の好きな道を探め、その道を楽しむ

む」という今日の「道楽」の用法も、決してこれと大きく離れたものではなく、一つの道をひたむきに歩み、その過程そのものを楽しむ姿にも「道楽」の精神を見ることが出来ます。

(小林靖典)

お不動さま教えて？

質問 お寺の本堂やお墓、またお仏壇の前では、当たり前のように合掌します。

そこでお尋ねいたします。改めて、合掌することにはどのような意味があるのでしょうか。どうかお不動さま、教えてください。

お答え はい、お答えします。

お寺の本堂やご先祖さまのお墓、家のお仏壇の前などで、私たちは自然に手を合わせます。インドやネパールでは、合掌して「ナマステ」と挨拶を交わします。「ナマステ」とは、「あなたの内の聖なるものに帰依いたします」というほどの意味で、仏教で唱える「南無」と同様の語源をもっています。たとえば「南無阿弥陀仏」は「阿弥陀如来に帰依いたします」「南無大師遍照金剛」は「弘法大師空海に帰依いたします」という意味です。合掌は、このような帰依の心を身体で表現した姿なのです。

さらに合掌は、真言宗の修行法である三密行の中の身密に相当します。三密の修行とは、合掌することは仏さまのお姿を体現することの身密、真言を唱えることは仏さまのことはを説くことの口密、そして仏さまを心の中で念ずることは、仏さまのさとり境地に自分を安住させることの意密(心密)です。この三密行の結果、仏さまとわたしたち衆生とは平等一体となり、仏と成ることができると説かれています。

ご本尊やお仏壇に向き合ったとき、まず静かに合掌し、自らの体と言葉と心が仏さまと一つになることを念じましょう。そして日々のご加護への感謝を捧げるとともに、心に思う願いを仏さまに申し上げましょう。



大覚寺門跡推薦教室
いけばな嵯峨御流
「第11回」



法輪寺「茱萸袋」(しゅゆぶくろ)
市比賣神社
「菊の御中」(きくのおなか)



重陽の節句の花
「五色いけ」
月刊嵯峨より

古来、奇数は陽数として尊ばれ一月七日は「人日」、三月三日は「上巳」、五月五日は「端午」、七月七日は「七夕」、そ

御詠歌始めませんか

『密厳流御詠歌』講員募集のご案内

御詠歌とは和歌調の詞に節を付け鈴・鉦を使ってお唱えする仏教歌で、彼岸会・萬燈会などの法要でお唱えします。高幡山では次のとおり御詠歌の新講員を募集しますので、大勢様ご参加下さいますようご案内申し上げます。

記

- 一、名 称 遍照講高幡山支部
 - 一、参加資格 どなたでもご参加いただけます
 - 一、指 導 密厳流遍照講師範
 - 一、会 費 一ヶ月 三、〇〇〇円
- (但し、鈴・鉦などの道具は別費)
- 一、稽古日時 月二・三回 午前十時〜十二時
- 一、問い合わせ先 高幡不動尊内「遍照講高幡山支部」

電話 〇四二一五九一〇〇三二

の被綿きせわたも行われるようになりました。九月九日の京都では市比賣神社や法輪寺などで節句行事が催され、茱萸袋や被綿「菊の御中」をおわちいただけます。

嵯峨御流伝書初伝「五節句の花五箇条の心得」には、「重陽の花は菊五色を置花器に挿る。体に白菊、用に黄菊、留に赤菊、青色は葉なり、黒色の花なき故に水にて即ち五色とす。されば水は十一分に注ぐ。これ水と花と合体にて五色なり。」と記されています。

嵯峨御流華道芸術学院教授

納富貴甫

阿字の子が

阿字の古里

立ち出て

又立ち帰る

阿字の古里

「弘法大師第三番詠歌」

御◆案◆内

交通安全祈願

午前九時〜午後四時半
午後四時半までにお申込下さい。

御護摩修行

〇平日 八時・十時・十一時半・一時・三時

〇土曜・日曜・祝日

八時・十時・十一時半・一時・二時半・四時

〇但し一日、十五日の午前中は五時・十時・十一時半

〇ご縁日(二十八日)

五時・九時・十時・十一時半・十二時・一時・二時半・四時

〇御護摩料 金五、〇〇〇円也 金七、〇〇〇円也

金一五、〇〇〇円也

(大護摩) 金三〇、〇〇〇円以上

ご縁日 毎月二十八日

境内に市が立ち参道は歩行者天国になります。

フリーマーケット(リサイクル市) 毎月第二日曜日(雨天中止)

ござれ市(がらくた市) 毎月第三日曜日(雨天決行)

お焚き上げ 毎月十五日午前九時

月例写経会 毎月二十一日午後一時半

千体地藏尊月例法要 毎月二十四日午後二時

奥殿拝観(月曜休館) 午前九時〜午後四時

拝観料 五〇〇円

大日堂 鳴り龍・襖絵拝観 午前九時〜午後四時

参拝料 三〇〇円

尚法要中は拝観一時休止になりますのでご諒承下さい。

編集室だより

熊本地震に続き千葉豪雨被害が発生し、犠牲になられた方々のご冥福とご遺族にお悔やみ申し上げます。また罹災された方々には平穏な日々が早期に戻られるようお祈りいたします。

高幡いきもの曼荼羅記載の地球温暖化の影響でしようか、冬の寒さより夏の暑さ対策が最も重要かもしれません。現在工事中の客殿も換気だけでなく空調設備で温度管理する建物であるべく湿気が入らないようにする構造で、昭和世代ではとても考えられない時代になりました。

九月末には鉄骨建方が終わります。建物の概要をご覧いただけると幸いです。

あじさいまつりのご報告と秋の行事のご案内を一読ください。朝晩はしのぎ易くなりましたがご自愛ください。

発行所

〒191-0031 東京都日野市高幡733

別 格 本 山
高 幡 山 金 剛 寺

電 話 (042) 591-0032(代)
FAX (042) 593-3038

発行人 黒川 高 徳
編集人

年 4 回発行・再生紙使用